

# 2025年3月期 第2四半期決算説明会

2024年11月22日

第2四半期の業績は概ね計画通り、  
第7次中計(NN7) フェーズ2初年度は順調なスタート

## I. 2025年3月期 第2四半期 実績

P.3

## II. 2025年3月期 通期計画

P.11

## III. NN7 フェーズ2の進捗

P.17

## IV. NN7の達成とその先の更なる成長戦略

P.32

---

# I .2025年3月期 第2四半期実績

---

売上、営業利益ともに伸長、純利益は政策保有株式売却により増加

(単位：百万円)

	24/3期 2Q 実績	25/3期2Q		期初計画比		前年同期比	
		期初 計画	実績	増減額	率	増減額	率
売上高	82,359	91,500	93,452	1,952	102.1%	11,092	113.5%
営業利益	4,125	4,550	4,543	△6	99.9%	418	110.1%
経常利益	4,815	4,900	4,974	74	101.5%	158	103.3%
四半期 純利益	3,641	7,000	7,743	743	110.6%	4,101	212.6%

# 2025年3月期 第2四半期セグメント別実績

物流事業は日本が堅調、旅行事業、不動産事業も増収増益

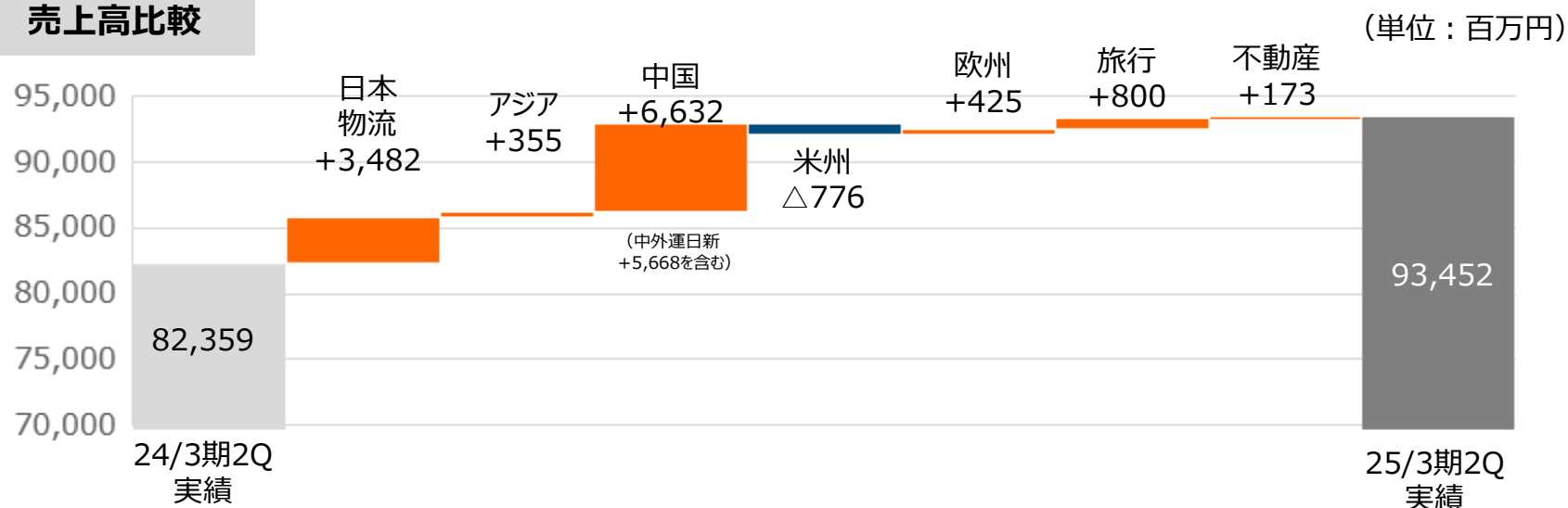
(単位：百万円)

事業		24/3期2Q 実績	25/3期2Q 実績	前年同期比		
				増減額	率	
売上高	物流事業	日本	47,140	50,622	3,482	107.4%
		海外	31,067	37,704	6,636	121.4%
	旅行事業	3,529	4,330	800	122.7%	
	不動産事業	623	796	173	127.8%	
	合計	82,359	93,452	11,092	113.5%	
営業利益	物流事業	日本	1,947	2,094	146	107.5%
		海外	1,524	1,492	△32	97.9%
	旅行事業	260	410	150	157.7%	
	不動産事業	392	546	153	139.2%	
	合計	4,125	4,543	418	110.1%	

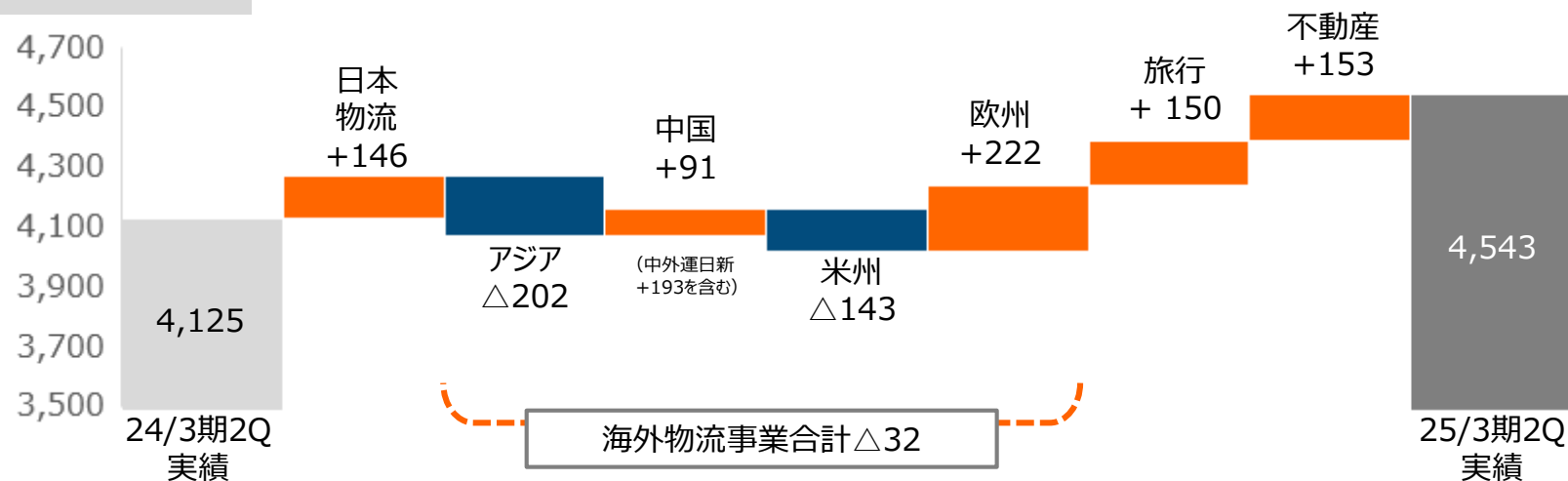
※数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

# 2025年3月期 第2四半期 セグメント別増減比較

## 売上高比較



## 営業利益比較



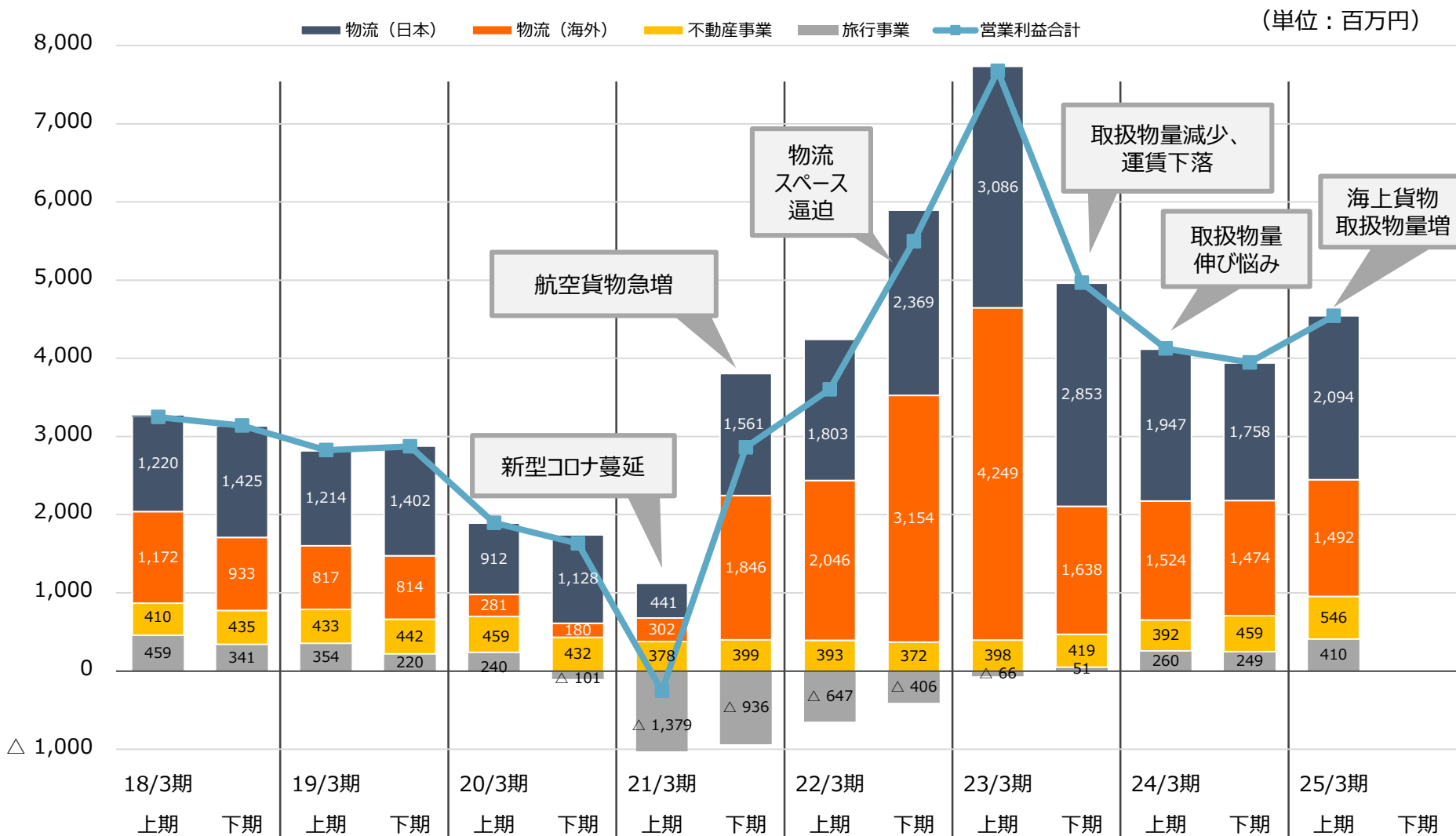
※数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

# 第2四半期実績 営業利益増減要因（前期比）

事業	地域	前期比 (百万円)	概況
物流事業	日本	146	<ul style="list-style-type: none"> <li>海上貨物は、輸出入ともに取り扱いが堅調</li> <li>航空貨物は、輸出は食品、輸入は医薬品の取り扱いが堅調に推移</li> </ul>
	アジア	△202	<ul style="list-style-type: none"> <li>マレーシアでは、倉庫業務堅調、インドでは、二輪車の国内配送業務が好調</li> <li>タイ、ベトナムでは、自動車関連貨物の航空輸出が伸び悩む</li> </ul>
	中国	91	<ul style="list-style-type: none"> <li>中外運-日新の新規連結化が収益に寄与</li> <li>景気減速や価格競争の影響が続き、航空・海上ともに取り扱い物量は低調</li> </ul>
	米州	△143	<ul style="list-style-type: none"> <li>メキシコでは、完成車の航空輸出、国内配送業務が好調</li> <li>米国、カナダでは、自動車関連貨物の荷動きは伸び悩み</li> </ul>
	欧州	222	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポーランドでは、倉庫保管取り扱いが好調継続</li> <li>オーストリアでは、米国向け機械設備・食品の航空輸出が堅調に推移</li> </ul>
旅行事業		150	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務渡航の取扱いは堅調、国内・海外団体旅行の取り扱いが収支を牽引</li> </ul>
不動産事業		153	<ul style="list-style-type: none"> <li>京浜地区で収益化した賃貸不動産が寄与</li> </ul>

# 営業利益（セグメント別）推移グラフ

物流事業は海上を中心に取り扱い伸長、旅行事業もコロナ前の水準まで回復

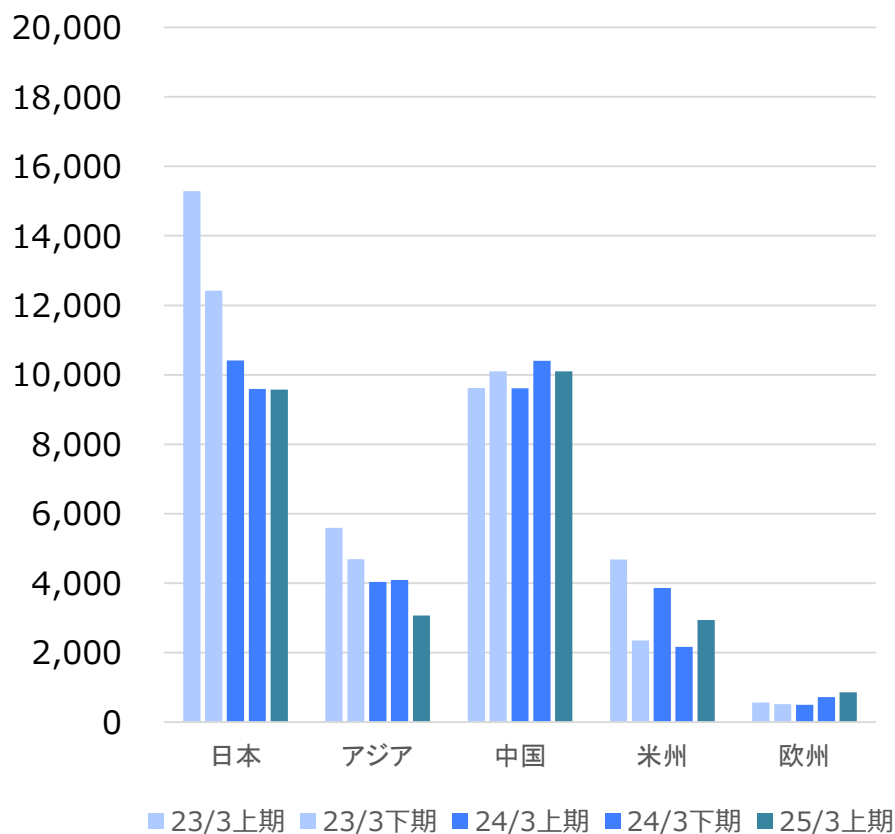




減少傾向続くも、需要回復の流れを受け、一部底打ちの兆し

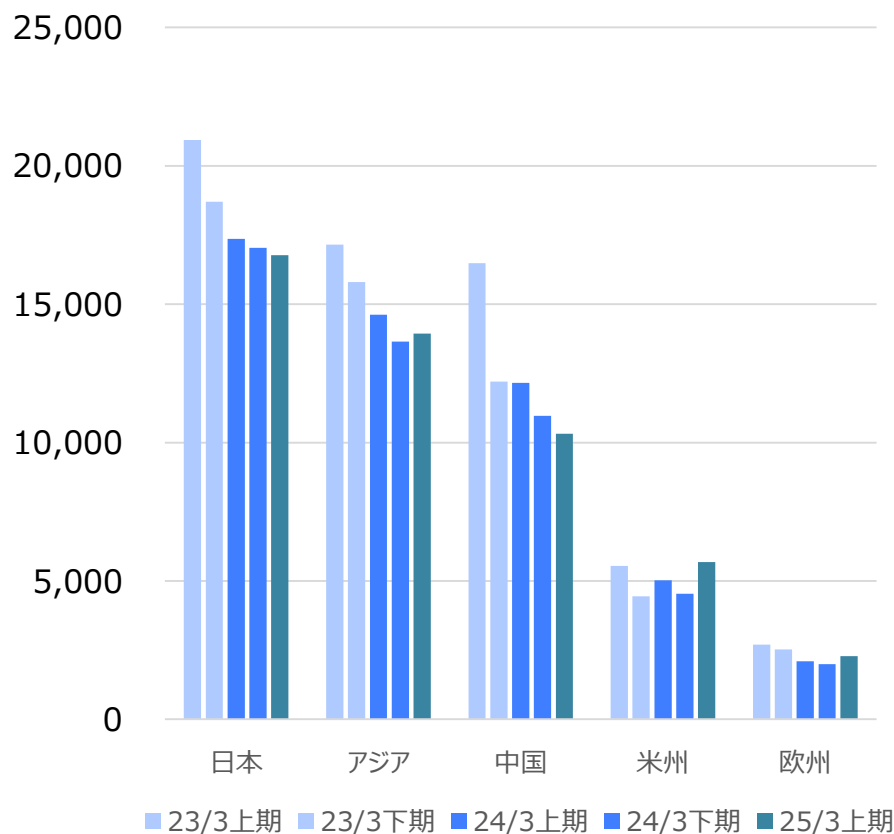
## 航空 輸出

(単位：トン)



## 航空 輸入

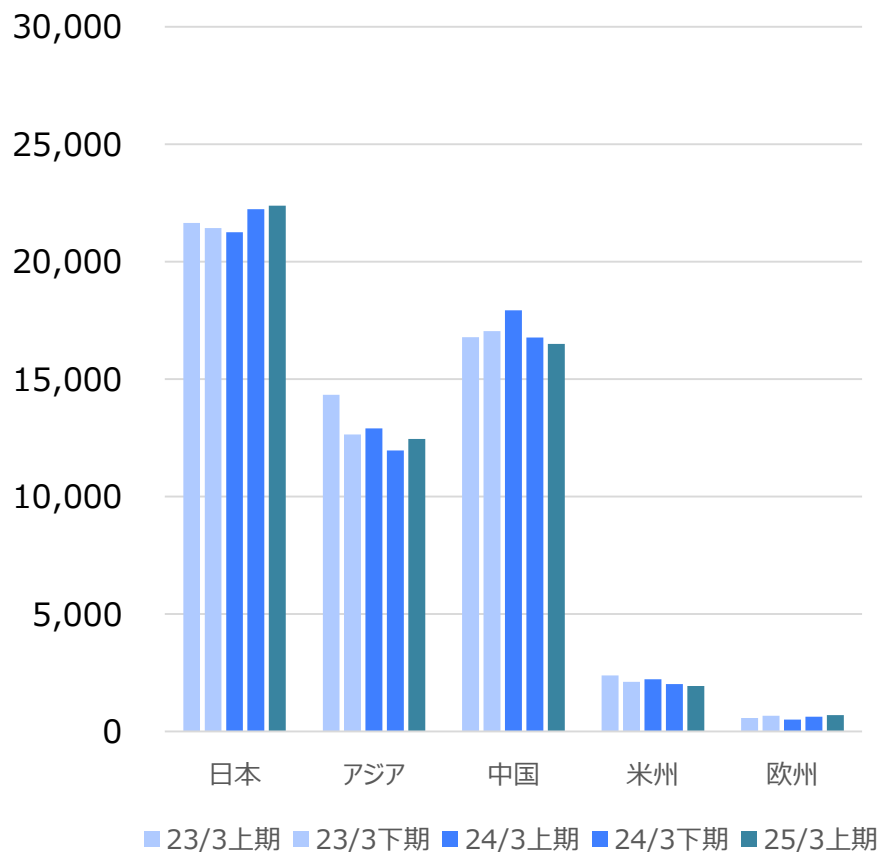
(単位：件)



## 日本は輸出入とも物量増加、海外も堅調

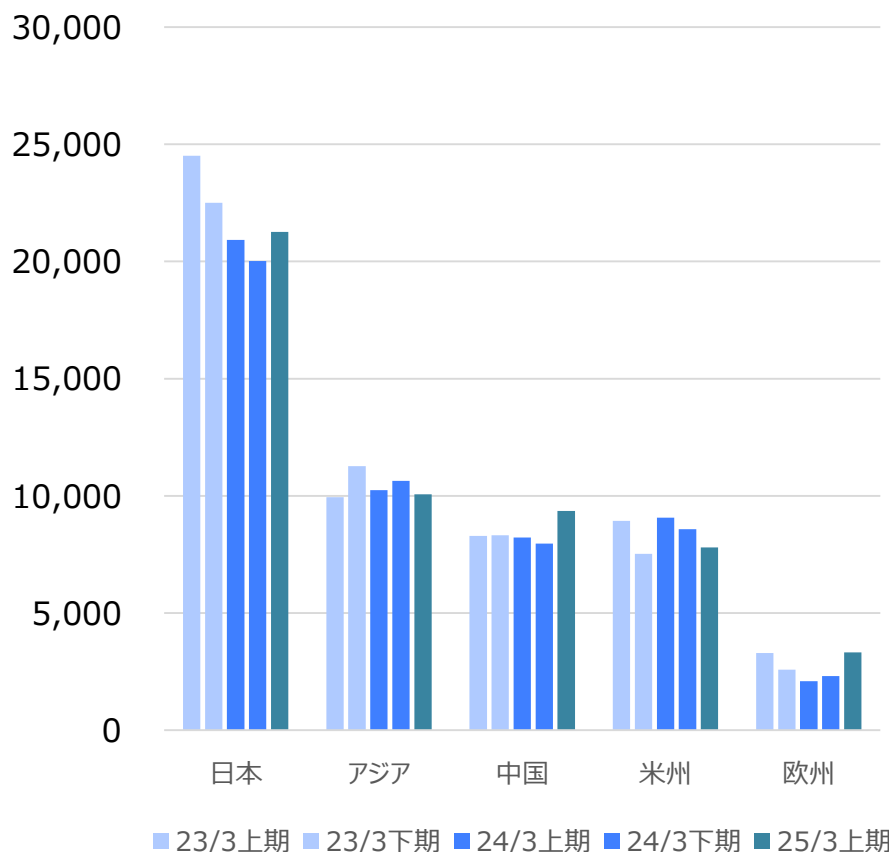
### 海上 輸出

(単位：TEU)



### 海上 輸入

(単位：TEU)



---

## Ⅱ.2025年3月期 通期計画

---

NN7 フェーズ2 初年度、計画通りの進捗を見込み前期比で増収・増益

(単位：百万円)

	24/3期	25/3期	前期比	
	通期実績	通期計画	増減額	率
売上高	169,934	183,000	13,065	107.7%
営業利益	8,073	9,100	1,026	112.7%
経常利益	9,463	9,800	336	103.6%
当期純利益	8,649	10,300	1,650	119.1%
為替レート	1ドル = 151円	1ドル = 151円	—	—

## 数値目標

### <フェーズ1> 23/3期～24/3期 (24/3期 実績)

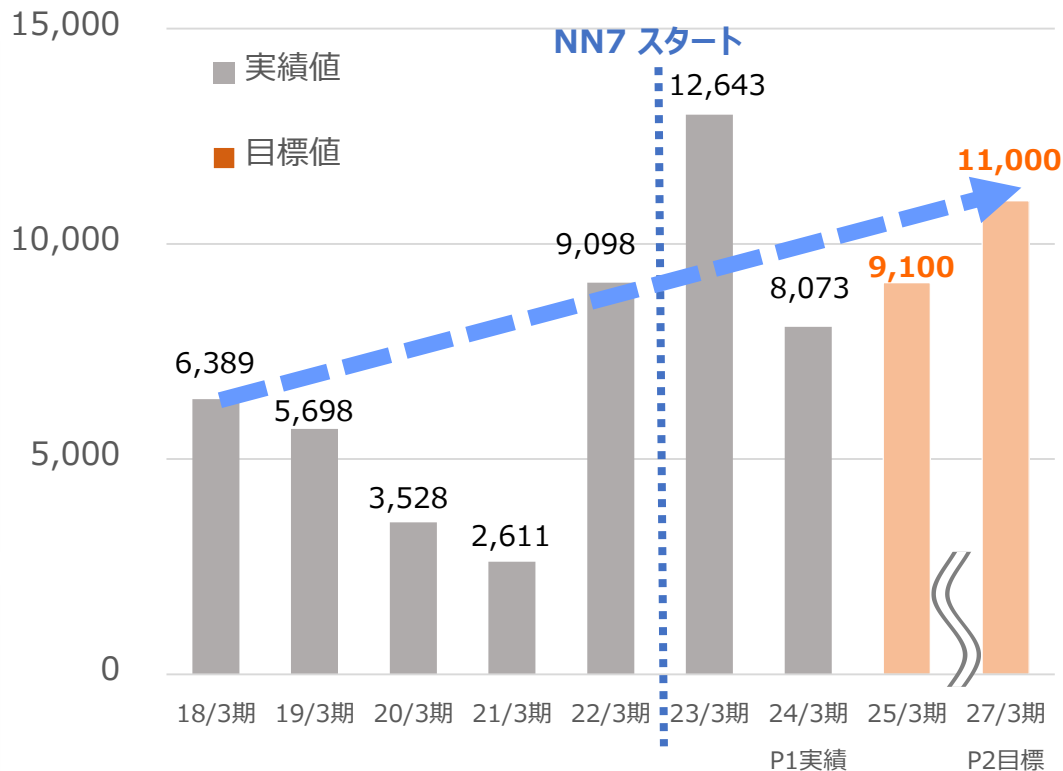
売上高： **1,699億円**  
 営業利益： **80億円**  
 経常利益： **94億円**  
 当期純利益： **86億円**  
 ROE： **9.7%**

### <フェーズ2> 25/3期～27/3期 (27/3期 目標)

売上高： **2,200億円**  
 営業利益： **110億円**  
 経常利益： **115億円**  
 当期純利益： **98億円**  
 ROE： **10.0%程度**

(百万円)

### NN7 数値目標 (営業利益) の考え方



【ご参考】過年度減価償却費、EBITDA

(百万円)

	18/3期	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期	24/3期
減価償却費	2,681	2,609	5,062	5,311	5,878	5,571	6,415
EBITDA	9,900	9,527	9,592	10,014	16,147	19,661	16,303

※EBITDA = 経常利益 + 減価償却費 + 支払利息

# 2025年3月期 セグメント別計画

物流事業は日本は堅調、海外も回復、全てのセグメントで増収増益

(単位：百万円)

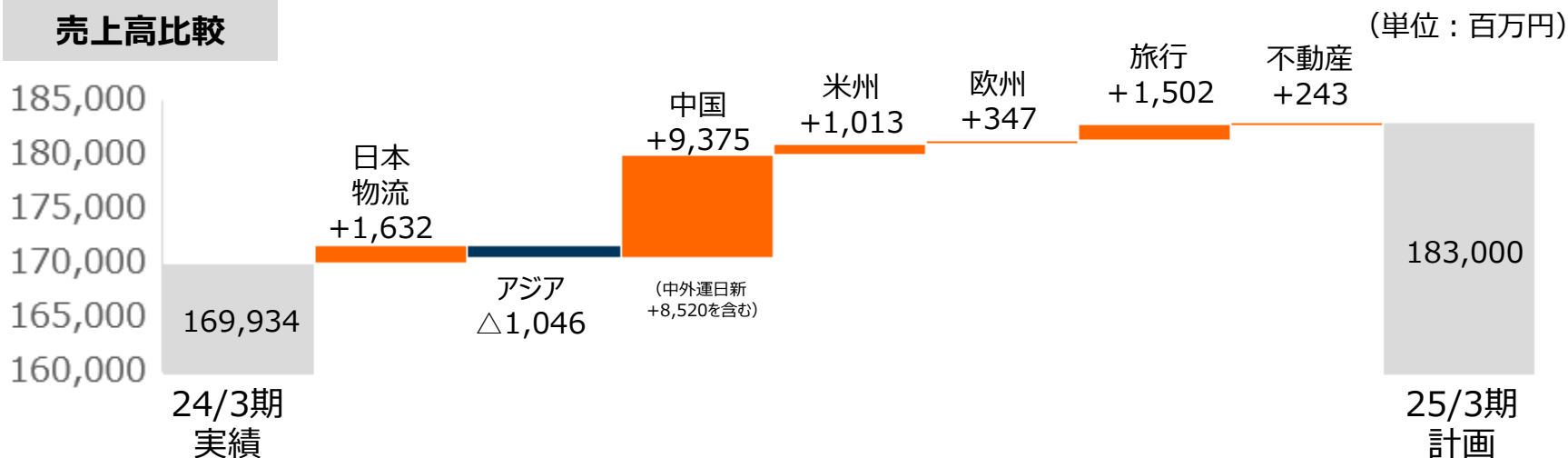
	事業		24/3期 実績	25/3期 計画	前期比	
					増減額	率
売上高	物流事業	日本	94,767	96,400	1,632	101.7%
		海外	66,711	76,400	9,689	114.5%
	旅行事業		7,098	8,600	1,502	121.2%
	不動産事業		1,356	1,600	243	117.9%
	合計		169,934	183,000	13,065	107.7%
営業利益	物流事業	日本	3,713	4,000	287	107.7%
		海外	2,998	3,300	302	110.1%
	旅行事業		509	700	190	137.3%
	不動産事業		851	1,100	248	129.1%
	合計		8,073	9,100	1,026	112.7%
	営業利益率		4.8%	5.0%	—	—

※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

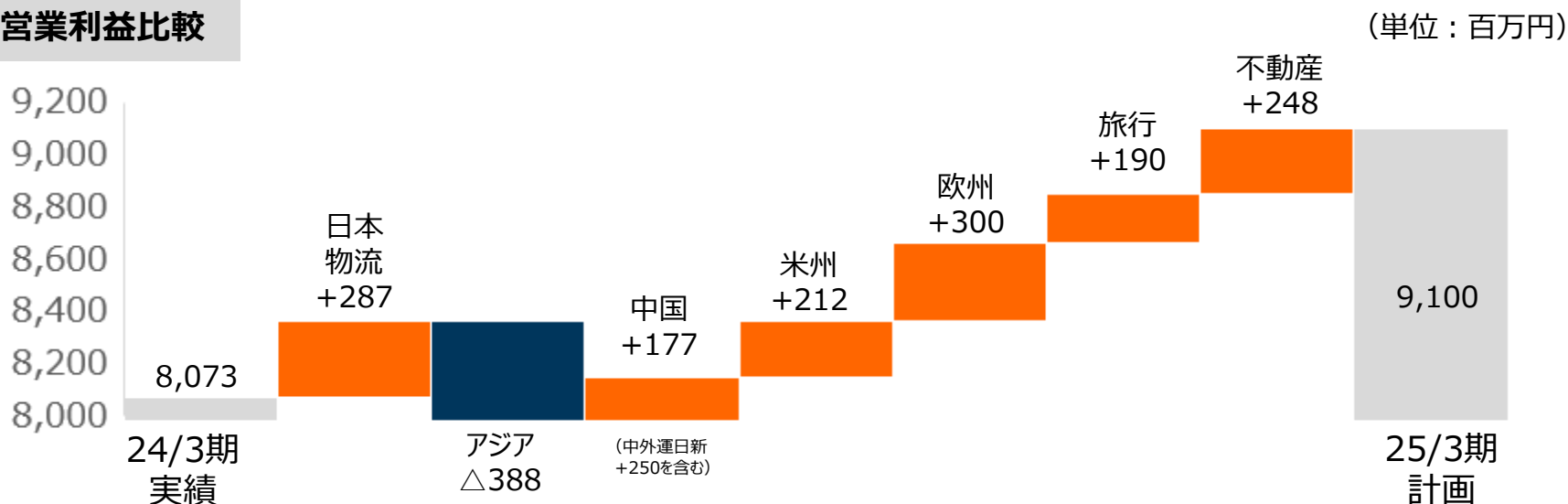
# 2025年3月期通期計画 前期比較

物流事業は日本は堅調が継続、海外は米州で荷動きが回復

## 売上高比較



## 営業利益比較



# 2025年3月期 営業利益増減要因（前期比）

事業	地域	前期比 (百万円)	概況
物流事業	日本	287	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海上貨物を中心に荷動き堅調、倉庫業務はEC関連貨物取り扱い開始も寄与</li> <li>・NN7 フェーズ1の成長投資が収益化</li> </ul>
	アジア	△388	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マレーシアでは好調を維持、インドでは国内配送業務が引き続き堅調</li> <li>・タイでは自動車関連貨物の回復が鈍く、ベトナムも航空貨物取り扱いが減少見込み</li> </ul>
	中国	177	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連結子会社化した中外運日新が通期で寄与</li> <li>・景気回復の遅れの影響や競争激化により、取り扱い物量が弱含み</li> </ul>
	米州	212	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米国では自動車関連貨物の取り扱いが回復</li> <li>・蓄電池やEV関連貨物の取り扱いも拡大</li> </ul>
	欧州	300	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポーランドでは倉庫事業が引き続き堅調、収支を牽引</li> <li>・営業力強化による新規案件拡大</li> </ul>
旅行事業		190	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体旅行の取り扱いが堅調、継続</li> </ul>
不動産事業		248	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京浜地区で収益化した賃貸不動産が通期で寄与</li> </ul>



---

## Ⅲ. NN7 フェーズ2の進捗

---

基本方針	「サプライチェーン ロジスティクス プロバイダーとして、新領域事業への挑戦とコア事業の深耕化を図るとともに、ESG経営に取り組む」		
	コア事業の深耕化	ESG経営	新領域事業
重点施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業ポートフォリオ戦略の推進</li> <li>DXの推進</li> <li>新領域事業の創出</li> <li>ESG経営の推進</li> </ul>		

単位：百万円

	2022/3期	2024/3期	2027/3期 目標
売上高	192,699	169,934	220,000
営業利益	9,098	8,073	11,000
ROE	9.4%	9.7%	10.0%程度

※為替レート 1ドル=145円

フェーズ1 (23/3期~24/3期)

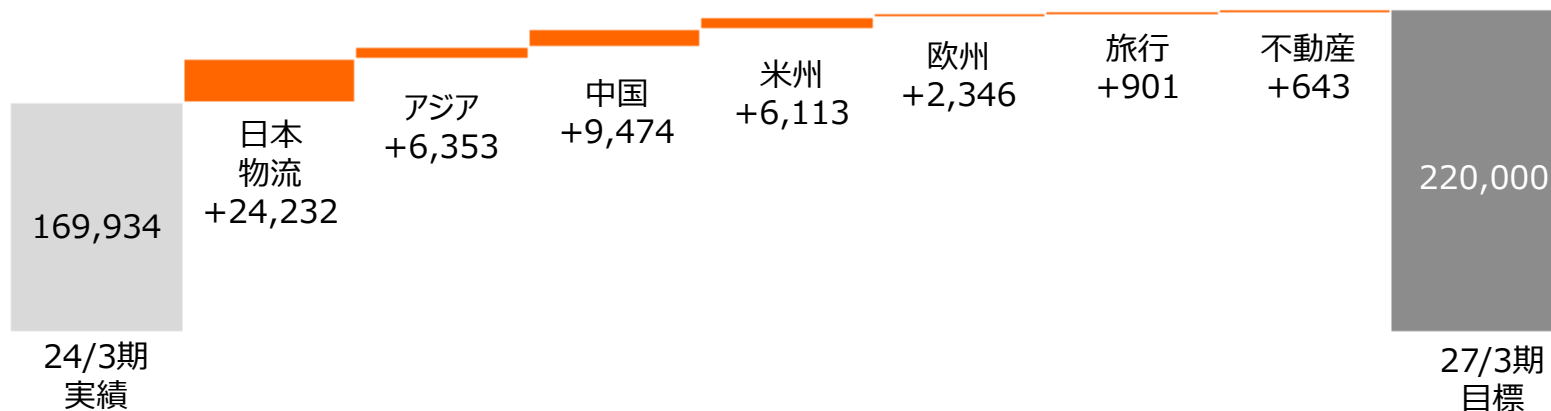
フェーズ2 (25/3期~27/3期)

		数値目標		フェーズ2 計画
		24/3期 実績	27/3期 目標	
		上段：売上高		
		下段：営業利益		
物流	日本	947億円	<b>1,190億円</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>成長分野への投資による事業拡大（神戸、熊本、北海道等）</li> <li>LIB（EV電池）関連事業の拡大</li> <li>神奈川埠頭倉庫、北関東ロジスティクスセンターの本格稼働</li> </ul>
		37億円	<b>43億円</b>	
	米州	188億円	<b>250億円</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>EMG※サービス顧客の拡大 ※End to End Management Group（物流サプライチェーン可視化サービス）</li> <li>蓄電池関連貨物の取り扱い拡大</li> <li>地場営業の強化</li> </ul>
		9億円	<b>12億円</b>	
	欧州	86億円	<b>110億円</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポーランド倉庫事業の強化</li> <li>新規事業（食品、機械設備）の取り扱い拡大</li> </ul>
		△0億円	<b>5億円</b>	
	アジア	216億円	<b>280億円</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インド国内輸送事業の強化</li> <li>マレーシア自動車関連倉庫の拡充</li> </ul>
		13億円	<b>18億円</b>	
	中国	175億円	<b>270億円</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>連結子会社化した中外運日新の収益拡大</li> <li>非日系企業への営業拡大</li> </ul>
		6億円	<b>13億円</b>	
旅行	70億円	<b>80億円</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>団体旅行の取り扱い強化</li> </ul>	
	5億円	<b>7億円</b>		
不動産	13億円	<b>20億円</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>京浜地区等の賃貸不動産の収益化</li> </ul>	
	8億円	<b>12億円</b>		
合計	1,699億円	<b>2,200億円</b>		
	80億円	<b>110億円</b>		

# NN7 フェーズ2計画 数値目標

## 売上高

(単位：百万円)

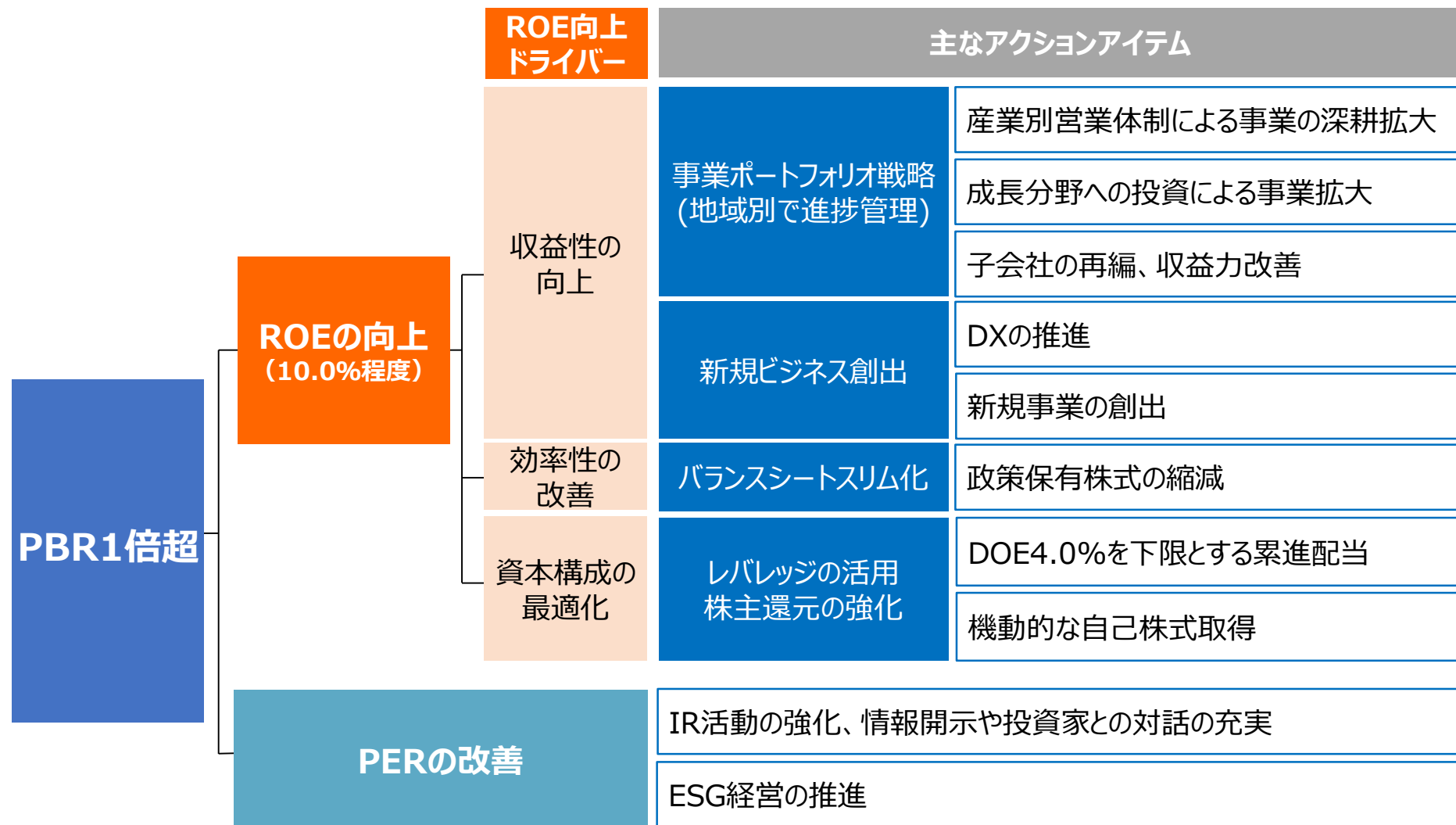


## 営業利益



※数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

成長投資と新規事業の拡大、資本効率の向上により、PBR1倍超を目指す



# NN7 産業別営業体制による事業の深耕拡大

	自動車関連物流	化学品・危険品物流	食品物流
フェーズ 1	北関東ロジスティクスセンター 着工	神奈川埠頭倉庫 営業開始	既存施設の最適稼働 利益率向上
フェーズ 2	北関東ロジスティクスセンター 竣工、営業開始	神奈川埠頭倉庫 安定収益確保	米州・アジアの 低温物流拠点整備
	LiBerth(※2)等DX活用による EV関連物流新規開拓	新倉庫建設、営業開始 (神戸、熊本、北海道)	
	アジアでの二輪車 輸送業務の強化	国内危険品物流 サプライチェーン網の構築	国内での食糧保管施設、 低温物流設備拡充

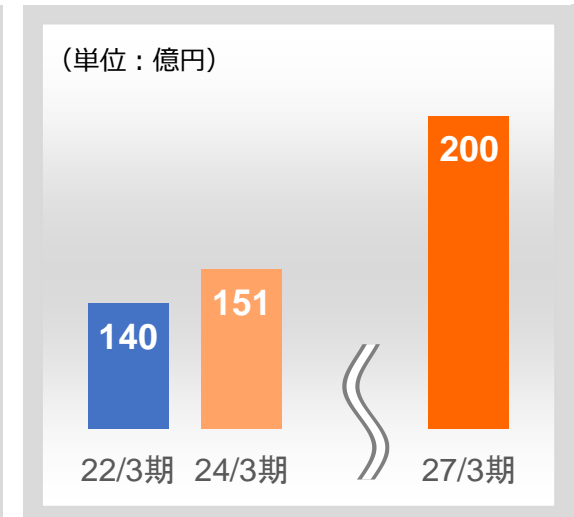
## 売上高推移 (※1)



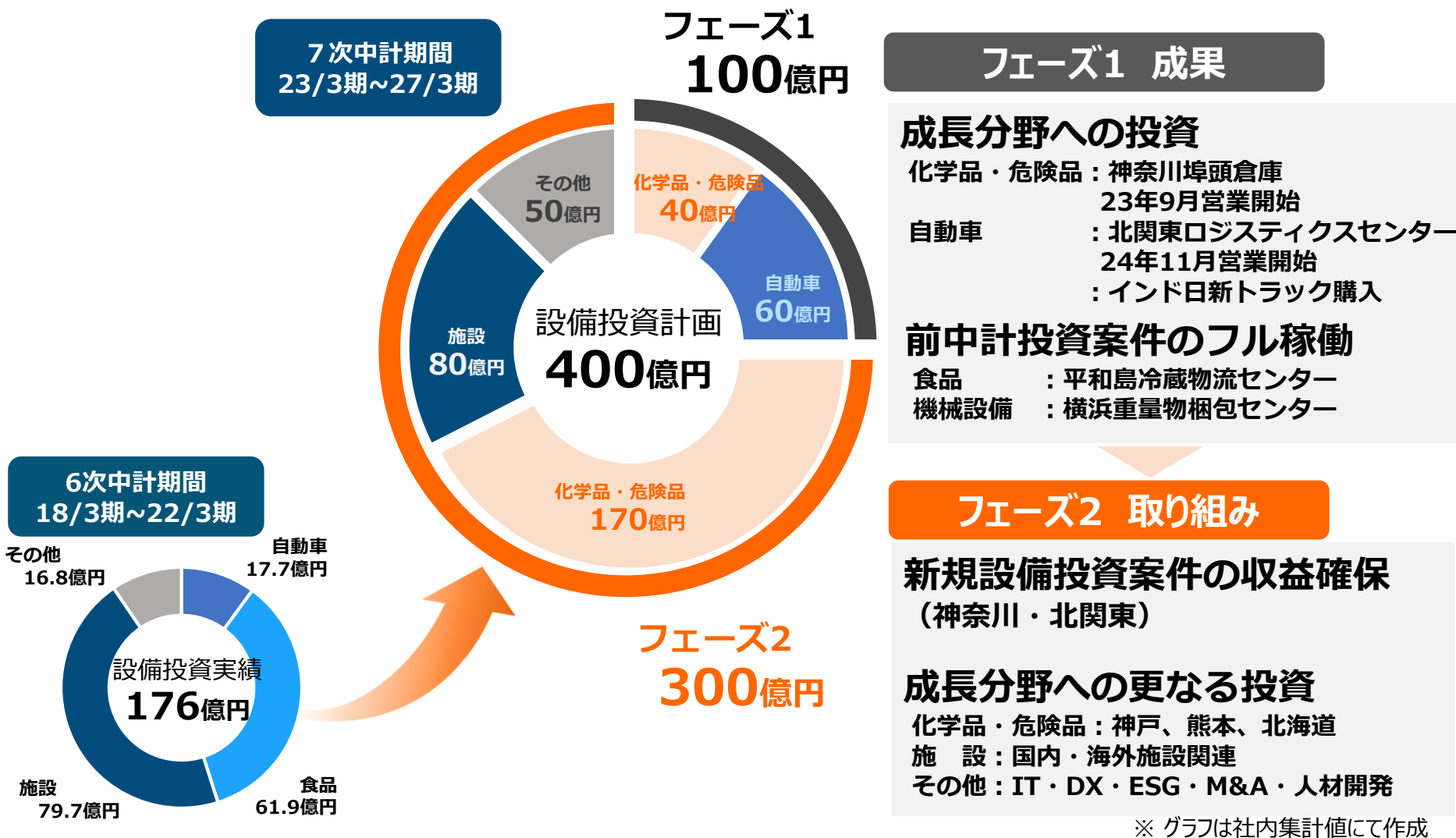
(※1) グラフは社内集計値にて作成



(※2) リチウムイオン電池の「LiB」と、停泊所を意味する「Berth」を組み合わせた造語。



コア事業を中心に成長分野への投資を加速し、事業拡大を図る



事業モデルや業務オペレーションを変革し、新たな利益を生み出す

## フェーズ1 成果

### DXの推進

**Forward ONE**

- デジタルフォワーディングサービス  
「Forward ONE」新機能追加
- リターナブルケースサービス  
「HACO Lab.(ハコラボ)」にてパートナー企業と協業し医薬品輸送サービスを展開



### 新規事業の創出



- リチウムイオン電池 (LIB) の動脈・静脈物流ソリューションサービス開発
- 新規事業提案制度開始

## フェーズ2 取り組み

### DXの推進

- 「Forward ONE」サービス拡充で収益拡大
- 「HACO Lab.」静脈物流の仕組みを提案  
容器メーカーと協業深化で物流+アルファの付加価値創出

### 新規事業の創出

- LIBコンテナ、LIBボックス、付帯サービスによるLIB物流サービスの収益化
- 顧客ニーズにあった新しい物流関連事業の創出



## 株主還元の充実化と資本効率化を進める

### 資本政策

#### (1)株主還元方針

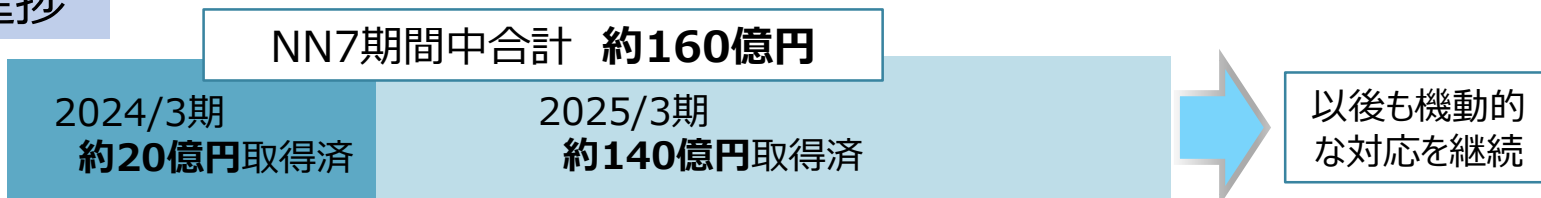
配当指標 : DOE (株主資本配当率) 4.0%を下限とする累進配当  
 自己株式取得 : 2025/3期までに約160億円取得  
 自己株式消却 : 発行済株式総数の5%を超える部分は原則每期消却

#### (2)政策保有株式の縮減

みなし保有株式を含め、2027/3期までに約200億円を縮減

### 資本政策 進捗

自己株式取得

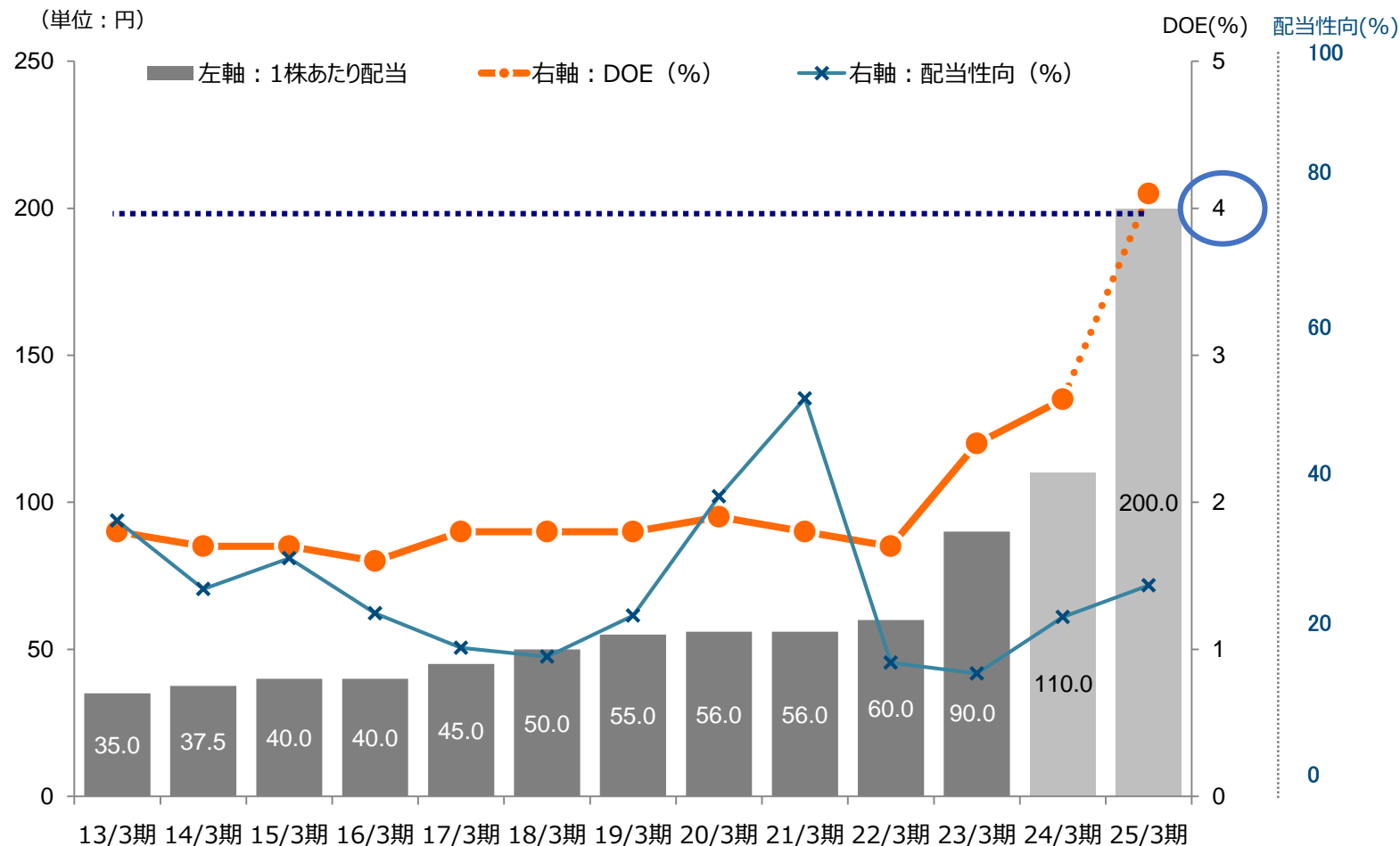


政策保有株式の縮減



昨年11月取得した信用格付けA- (R&I社)のもと適切な資本政策を実施、財務健全性を維持

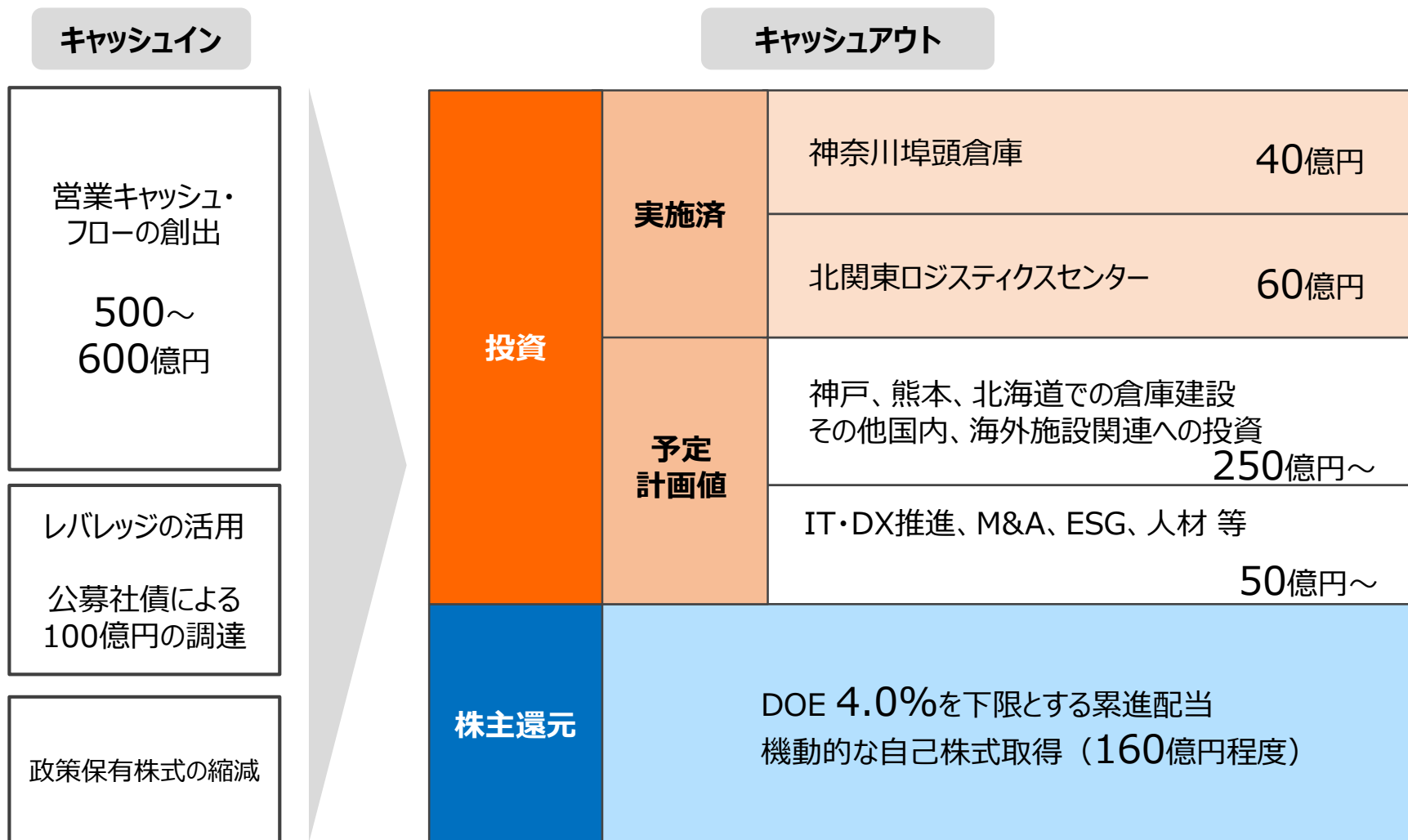
## 累進配当の導入による株主還元の充実化



※2017年10月1日を効力発生日として普通株式5株につき1株の割合をもって株式併合を実施し、株式併合を考慮した金額を記載

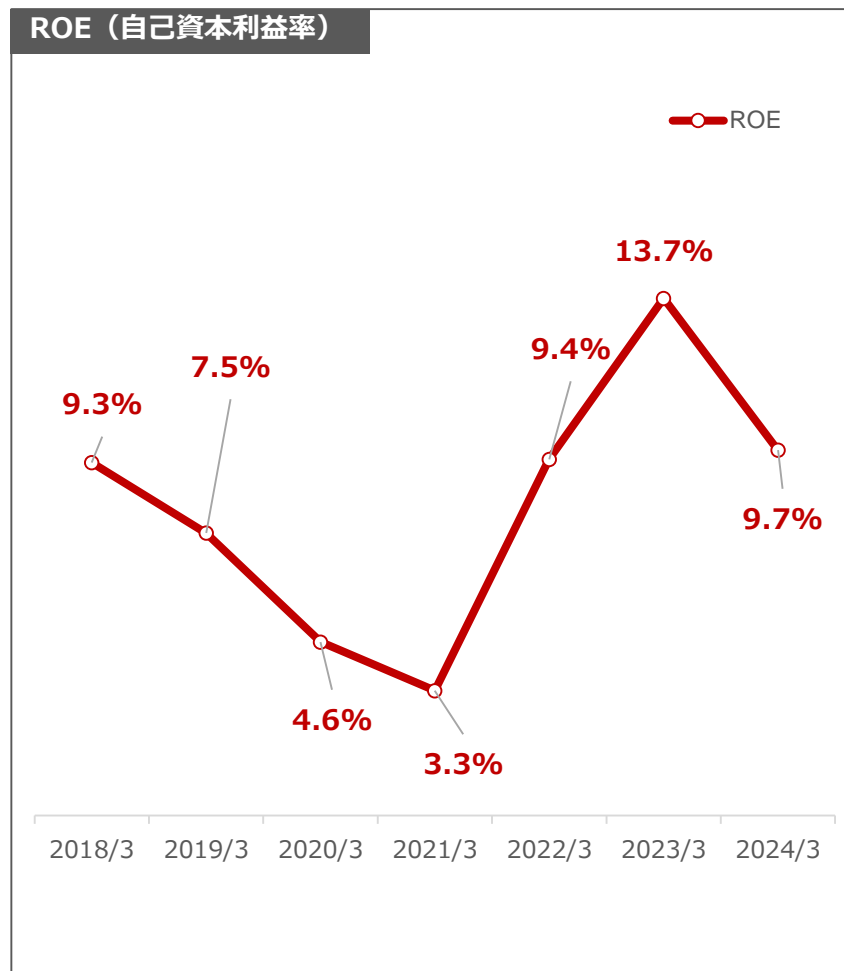
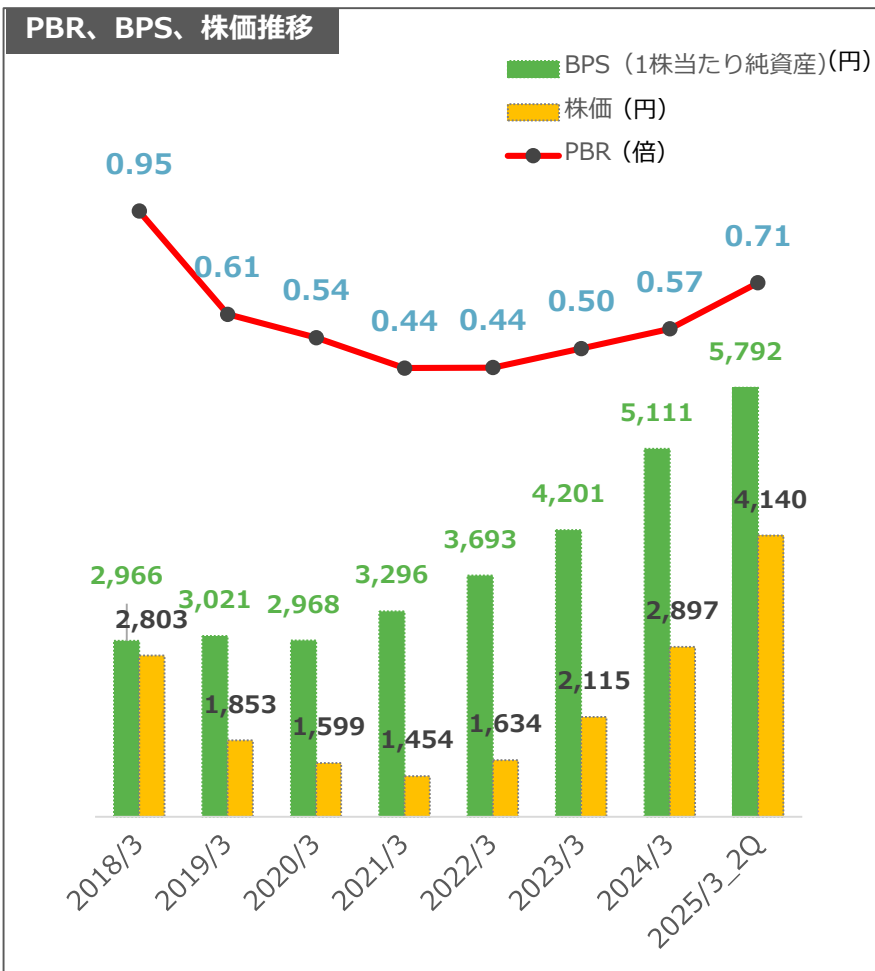
2024年7月「日経累進高配当株指数」の構成銘柄に選定 (国内上場企業のうち、累進配当を継続する企業30社)

営業キャッシュ・フロー(500~600億円)を創出し成長投資と株主還元を実施

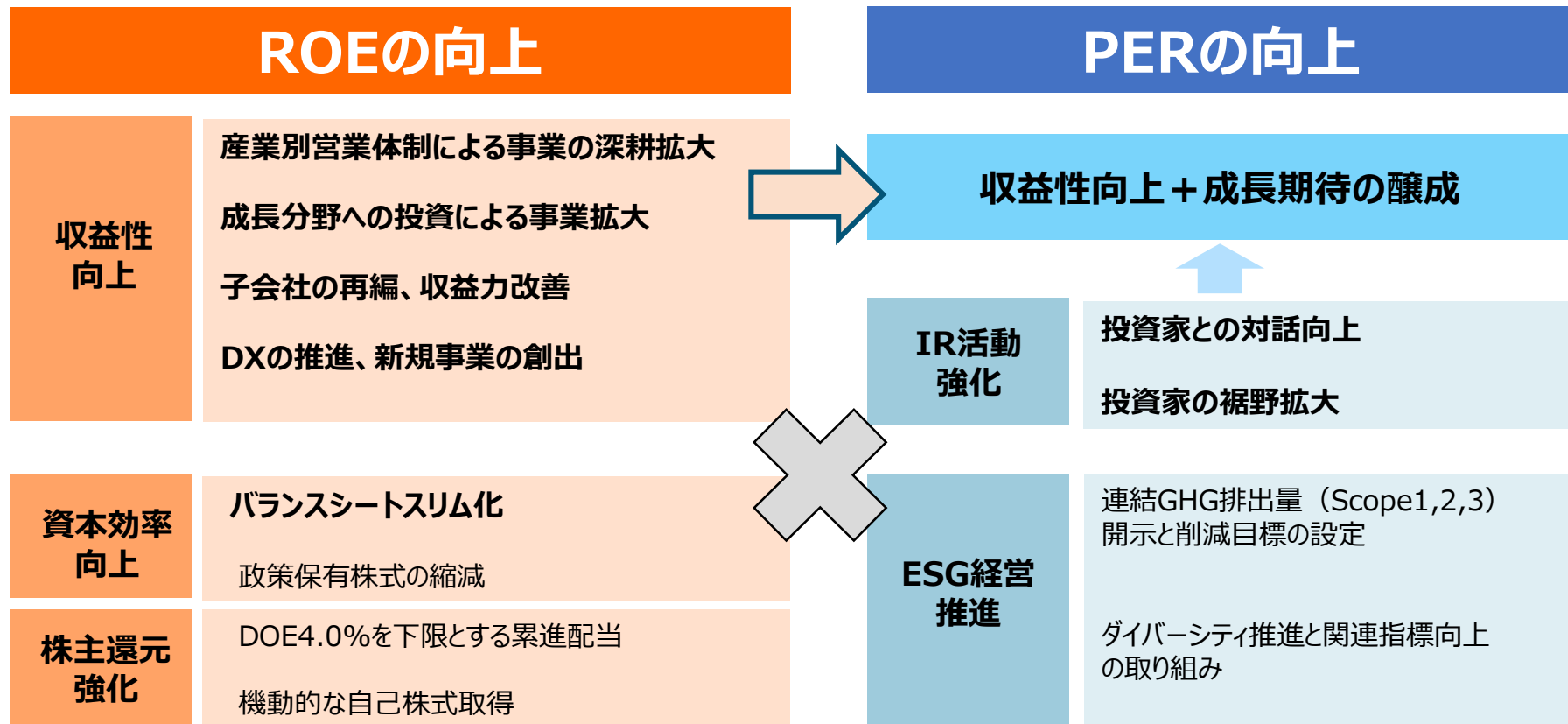


## 企業価値向上に向けた現状分析

PBRは1倍超に向けて伸長。

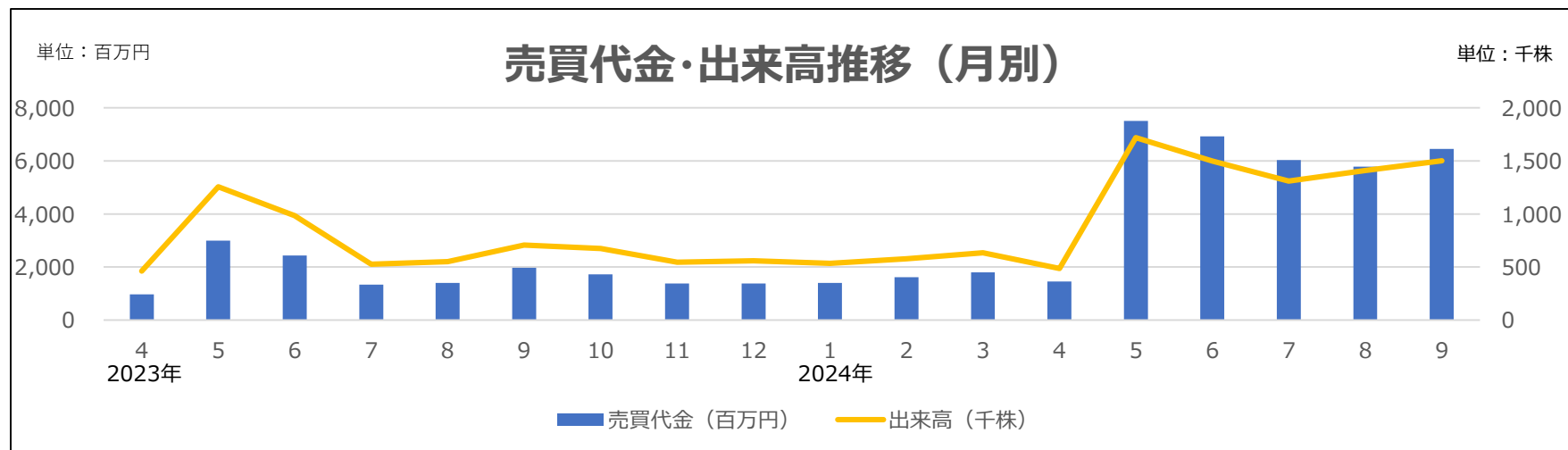
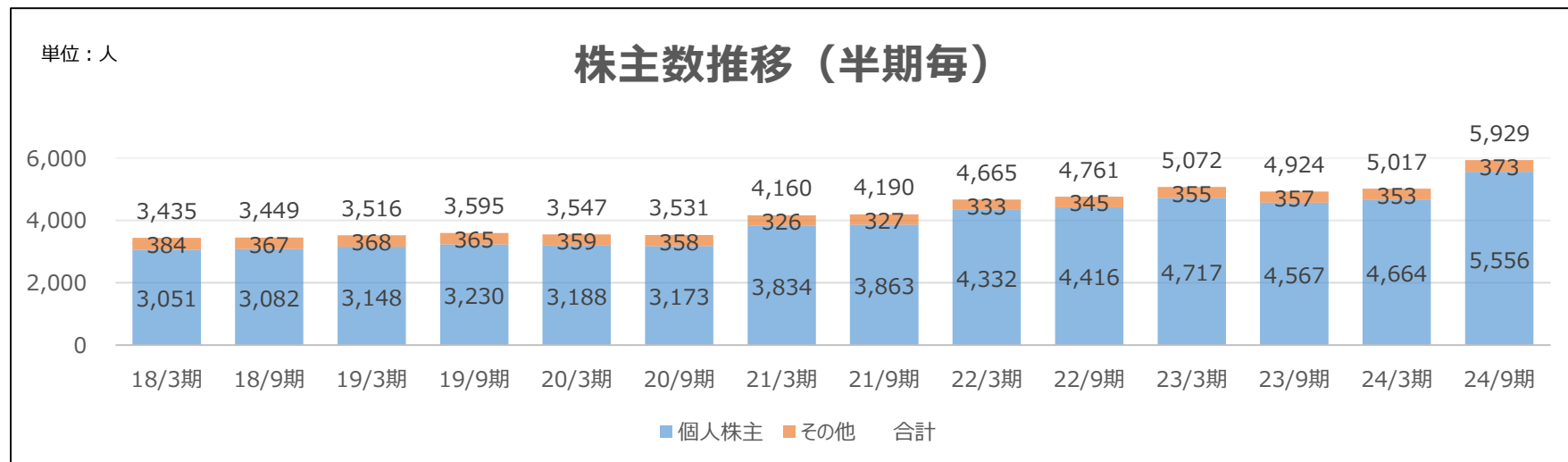


## PBR 1 倍超実現のための施策





# PBR 1.0倍超の早期実現

## 株主数、出来高は増加基調にあり、流動性が大幅に向上



## 気候変動対応、人的資本経営の推進によるESG領域での企業価値向上

マテリアリティ	主な取り組み	実績等
<p><b>自然資本</b> 脱炭素社会の実現と環境に配慮した循環型社会への貢献</p>	<p>連結GHG排出量削減目標の設定</p> <p>再生可能エネルギーへの転換</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連結GHG排出量削減目標 21.6% 2030年度目標（2022年度比）</li> <li>・再エネ電力導入率 約36%（単体）</li> <li>・マレーシア現法に太陽光発電設備導入（海外初、同社GHG排出量3割削減）</li> </ul>
<p><b>人的資本</b> 一人ひとりの尊重と個の能力を最大限に発揮できる環境の整備</p>	<p>人材育成と能力開発</p> <p>多様性の尊重と女性活躍の推進</p> <p>従業員エンゲージメントの向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・階層別研修の拡充、</li> <li>・DX人材育成のためのITパスポート研修の導入</li> <li>・女性管理職比率9.4%（目標10%の早期実現） 女性執行役員2名登用</li> <li>・育児・介護と仕事の両立支援制度の充実化</li> <li>・ダイバーシティ研修を通じた職場環境整備</li> <li>・RS制度導入による経営参画意識の醸成</li> <li>・エンゲージメントツール活用による人材・組織力強化</li> </ul>
<p><b>社会関係資本</b> すべてのステークホルダーに公正で価値と希望の持てる企業づくり</p>	<p>サステナビリティ情報開示の拡充</p> <p>ESG第三者評価の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合報告書、HPにおける非財務情報量の拡大</li> <li>・ESG投資指数に選定</li> <li>・気候変動評価の向上</li> </ul> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: flex-end;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>FTSE Blossom Japan Sector Relative Index</p> </div>  </div>

---

## **IV. NN7の達成とその先の更なる成長戦略**

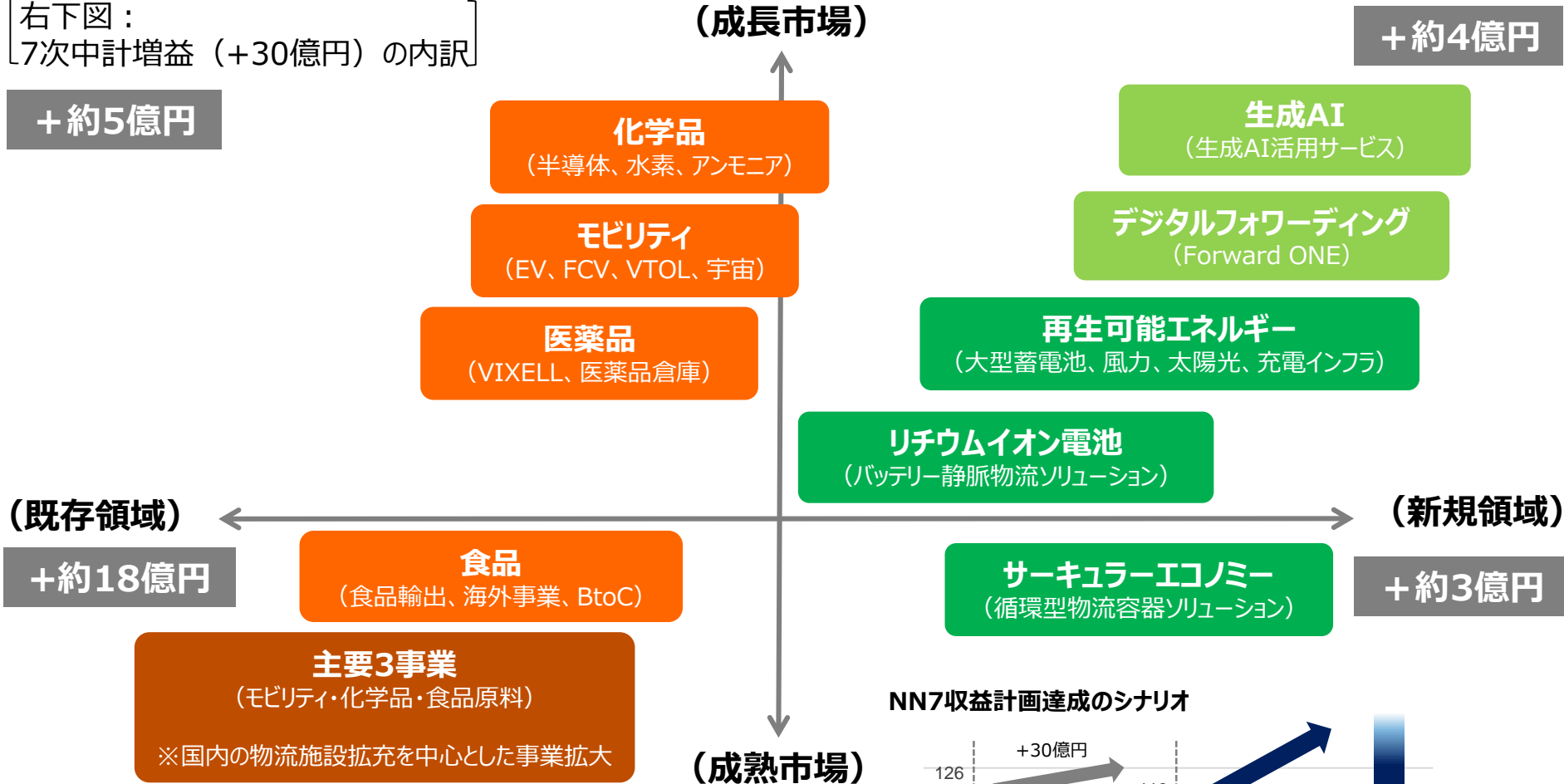
---



# 成長分野における10の取り組み

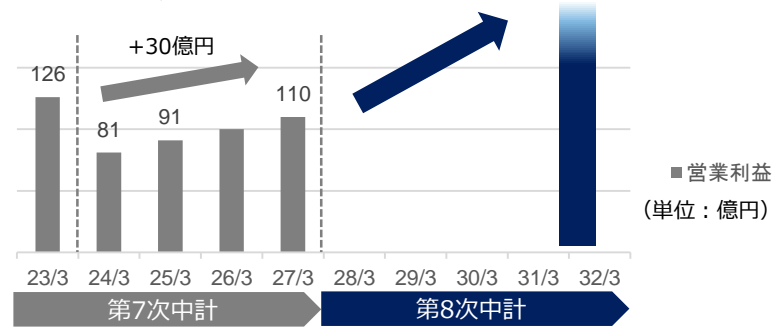
## 両利きの経営で新規領域と既存領域を同時に推進

〔右下図：  
7次中計増益（+30億円）の内訳〕



- 主要事業の対象領域を拡大し海外展開も加速
- 脱炭素社会に貢献する物流関連事業を構築
- デジタル・AIを活用した物流サービスを開発

NN7収益計画達成のシナリオ



## 主要事業の対象領域を拡大し、海外展開も加速

### 国内

- モビリティ
- 化学品
- 食品・医薬品

- 竣工済 ② ⑤
- 新築計画 ① ④ ⑦ ⑧
- 拡張計画 ③ ⑥



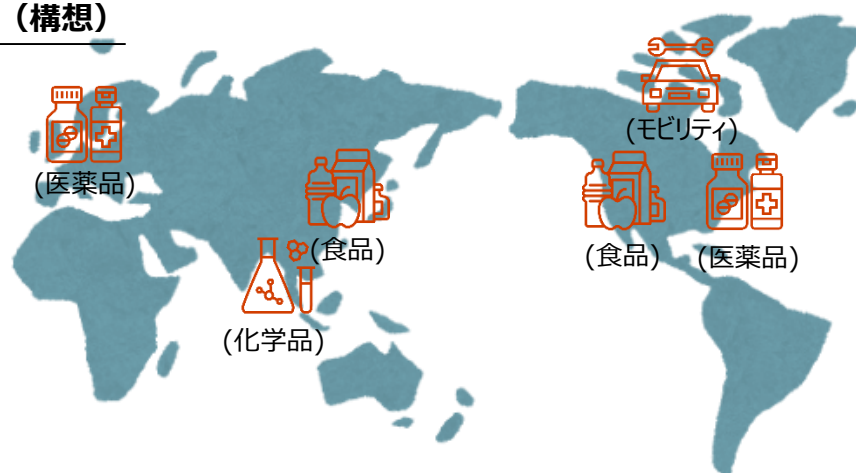
### 海外

- モビリティ
- 領域：EV、FCV、VTOL
- 海外：米国、カナダ

- 食品
- 領域：食品輸出入
- 海外：米国、ベトナム


- 化学品
- 領域：水素・アンモニア
- 海外：東南アジア

- 医薬品
- 領域：医薬品倉庫、輸送網
- 海外：EU、米国



# 北関東ロジスティクスセンター

## 2024年11月1日 開業

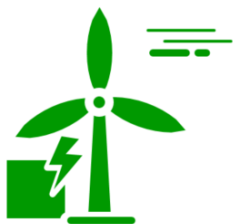


所在地 : 栃木県芳賀郡芳賀町  
芳賀第2工業団地  
施設内容 : 一般物流倉庫 保税倉庫 定温エリア  
敷地面積 : 46,180.53m<sup>2</sup>  
延床面積 : 24,534.10m<sup>2</sup>



## 脱炭素社会に貢献する物流関連事業を構築

### 再生可能エネルギー



大型蓄電池・家庭用蓄電池、風力・太陽光発電、充電インフラ

爆発的な拡大が見込まれる再生可能エネルギー市場貨物において、海外一貫輸送、通関、設置、部品管理、保守・メンテナンスまでをワンストップで提供する

### リチウムイオン電池



バッテリー静脈物流ソリューション



**LiBerth**  
リバース

使用済みリチウムイオン電池の回収・診断・保管・解体まで、安全でフレキシブルな物流インフラ機能を提供する

### サーキュラーエコノミー



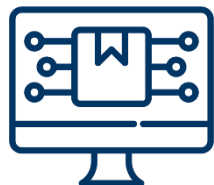
循環型物流容器ソリューション



**HACO Lab.**  
ハコラボ

物流容器の循環を生み出す様々な物流ソリューションを通じて、お客様の脱炭素を推進する

## デジタル・AIを活用した物流サービスを開発



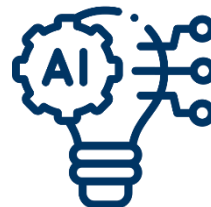
デジタルフォワーディング

**Forward ONE**

「Forward ONE」をフォワーディング事業の中心に据えたサービス構築

- ① 本船動静トラッキング・遅延通知
- ② 通関・船積み作業 進捗管理
- ③ チャット機能
- ④ 多言語対応

システムユーザーが1,500を超過



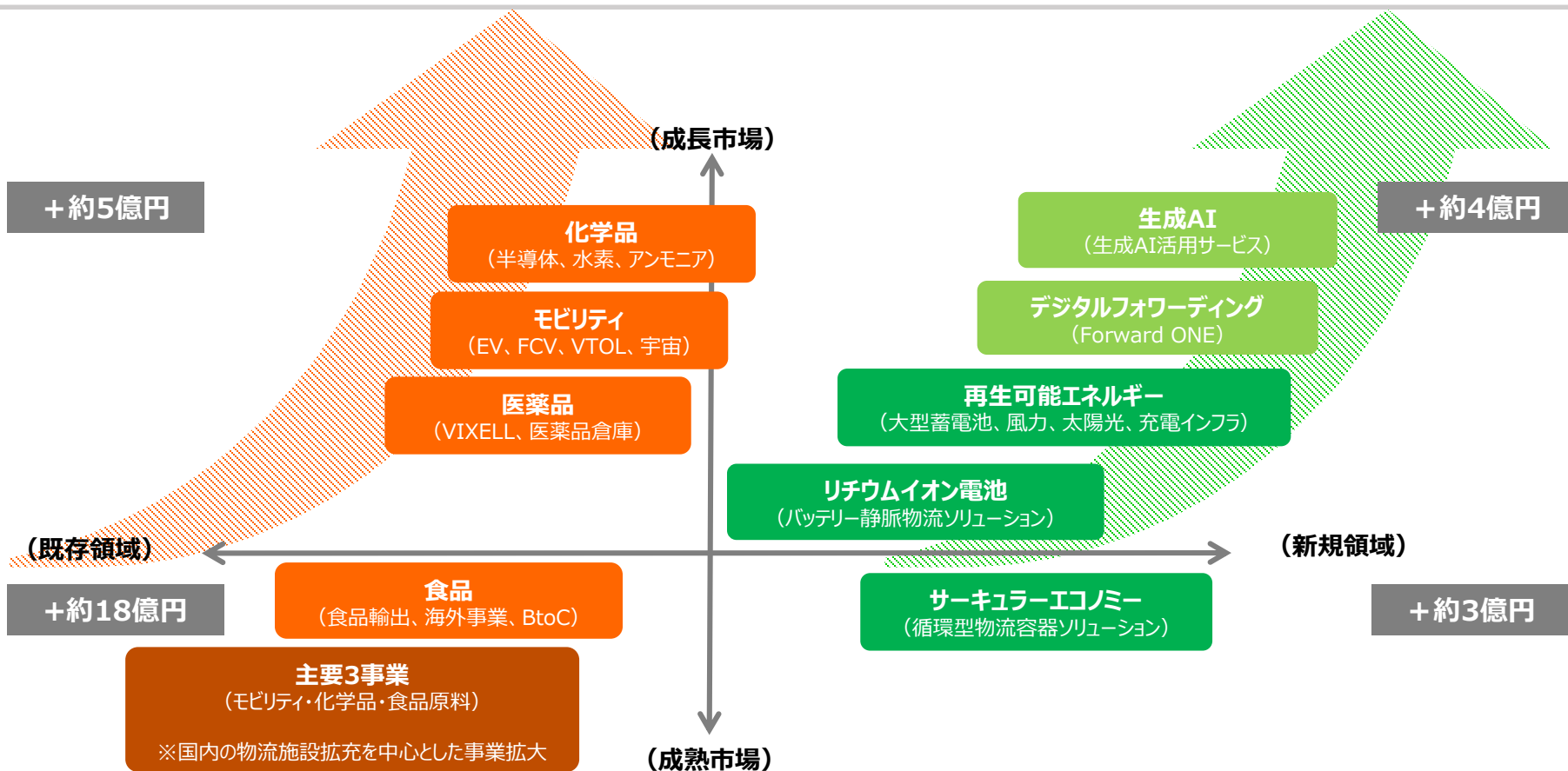
生成AI

生成AI活用サービス

Nissin AI based Platform (仮称)

生成AIを最大限に活用し、当社の持つ「個」の力やノウハウを活かすサービス構築

- ① 生成AI x 物流ノウハウ  
→ 産業領域毎のAIコンサルジュサービスを提供
- ② 生成AI x 通関業務  
→ 生成AIを活用し、通関業務を半自動化を実現



## 『両利きの経営』で新規領域と既存領域を同時に推進

## 2025年3月期 第2四半期 実績

物流事業は日本が堅調、旅行事業、不動産事業も増収増益

## 2025年3月期 通期計画

各セグメントとも計画通りを見込み、前期比で増収・増益

## NN7 フェーズ2の進捗

成長投資と成長戦略の推進により、PBR1倍超を目指す

## NN7の達成とその先の更なる成長戦略

コア3事業の領域拡大と新規ビジネスの創出により成長を実現

資料ならびにIRに関するお問い合わせは下記までお願い致します。

株式会社 日新  
経営企画部 広報・IR課  
TEL: 03-3238-6555  
<https://www.nissin-tw.com>

※本資料は投資勧誘の目的のための資料ではございません。  
また、将来に亘る部分につきましては予想に基づくものであり、  
確約や保証を与えるものではありません。